

健診における MCG (Multifunction Cardiogram) の有効性の検討

【演者】

落合出（ハイメディック有明ベイ、進興会）

【目的】

健診における MCG の有効性を検討する。

【対象】

健診にて、安静時心電図、心臓超音波検査、冠動脈石灰化スコア、吹田スコア、MCG を施行した90名

【方法】

MCG 検査は2誘導の心電図波形をコンピューターでフーリエ解析し、4万人のデータベースより定量評価し、虚血性心疾患のリスクを解析する検査である。今回、安静時心電図、心臓超音波検査、冠動脈石灰化スコア、吹田スコアと MCG スコアの重症度について、比較検討した。

【結果】

MCG スコアと冠動脈石灰化スコアには相関性が認められ、MCG は動脈硬化によるリスクを検知していると考えられた。また心臓超音波検査でも、MCG スコアとの相関を認め、MCG は心臓の器質的異常や心筋障害の影響を正しく検知していると考えられた。吹田スコアと MCG も生命予後を予測する因子と相関した。一方、安静時心電図では、石灰化スコア、MCG スコアと相関性が見られなかった。

【考察】

吹田スコア、石灰化スコア、心臓超音波検査の重症度と MCG スコアの重症度は相関し、治療が必要とされるもの、経過観察がされるものは MCG からも推測可能と考えられた。健診時の安静時心電図では心疾患の定量評価は困難である。しかし MCG は無侵襲かつスコアで結果を示すことから、早期検知、定期的なモニタリングとして有効と考えられ、総合的な心臓機能評価の品質向上のための価値ある有効な検査と考えられた。よって MCG は活動電位による心筋の変化から将来の心疾患の予測する検査として、健診における有効性が示唆された。

以上